

あとがき

社会鍼灸学研究会は毎年8~9月頃に開催され、その約1ヶ月後に世話人会を行い、報告や改善点等話し合います。その中で、毎回年内に会誌の発行をしようということになりますが、結局は翌年の研究会の直前に印刷して、配布を行うことになっていました。

14回開催後もそのように申し合わせておりました。また、2019年の12月に行った会議で、2020年に開催する15回研究会の開催日時や会場が、東京オリンピックのためになかなか決まりませんでした。誰もが、東京オリンピックという記念すべき年になるであろうと思って2020年を迎えたことと思います。

しかし、年明け早々に「COVID-19」という未曾有のウイルスに世界中が恐恐とし、平和な日常が奪われました。違う意味で、記憶に残る年になり、歴史の中に刻まれる年となることと思います。また一方で、日常の中でも、感染対策をしながら生活をしていかなければなりません。世話人も通常業務にCOVID-19の対策を行うことで煩雑さが追加されていました。

でも、そのような状況でも、社会鍼灸学研究会は開催をすることを決めました。感染対策のために、初めて「リモート開催」の形で実現することになりました。そのため、交流会や懇親会は準備できず、毎年会場でお会いする方との会話もかなわずに終了しました。

そして、COVID-19の状況下で発行する会誌の内容をどの様にするかの議論を経て、14号は第14回研究会の講師の先生1人の論文と、原著論文等で発行することにします。また、15号は「COVID-19特集号」として発行予定で、15号は、第14回研究会で講演された講師の先生の論文と本年の研究者発表会でご発表頂いた先生方の論文を掲載する予定です。

こんなに遅い発行はまさに異例です。数年後には、2020年はこうだったねと笑って話せるようになっていることを願って、あとがきとさせていただきます。

編集部 前田尚子